

飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

第 431 回 政界のコミュニケーター ～ 党人派

2011.8.6

国会運営の話である。

古くは緒方竹虎、三木武吉、大野伴睦、あるいは椎名悦三郎、石井光次郎、川島正次郎、少し前は二階堂進や金丸信、直近では野中広務かな。

…こんな名前を見てどのような印象を抱くだろうか？

贈収賄、利権・金権、影の独裁者、政界仕掛け人、闇將軍等々、どうも、あまりよろしくないイメージを持つ人が多いかもしれない。が、事実は決して、そうでもないらしい。

明治政府が成立した初期は、薩長の藩閥出身者が、政権の大半を占めていた。その後、藩閥の影響下にある官僚出身者と、自由民権運動に端を発する政党出身者が政権に加わるようになり、前者を官僚派、後者を党人派とする用語が生まれた。特に近代政治史の中で、吉田茂以来、池田勇人、岸信介、佐藤栄作と続く官僚出身エリート政治家に対し、冒頭の彼らを「**党人派**」と呼んだ。

彼らは政治のどろどろした部分を熟知していた。政治は決して理論や理屈だけで動くものではないことを知り抜いていた人達である。最近では理屈や理論を「政策」といい、それをまとめてマニフェストと称し、金科玉条(きんかぎょくじょう)の如く崇(あが)め立てるが、実はそれだけでは、政治は動かないことを、真理として良く知っていた。

政治は夢やビジョンではない。

今、この時の最大幸福を創るための現実である事、間違っではいけない。どんな素晴らしい「政策」であっても、それを実現できなければ、政治家の資格がないというべきなのだ。本来、だから政治家は最高の実務者である。それを実現させるために、衆議院480人、参議院242人(公職選挙法第4条「定数」)もの国会議員がいる。

政党政治、議院内閣制をうまく機能させ、政策を具体的に執行させるためには、722人の政治家を、それなりの形にまとめる調整力が必要となるのである。そうしないと法案は成立せず、いつまでも政治は動かない。国民の最大不幸を引き起こす恐れがある、重大な施策だといえる。

そのために国会对策委員会というものがあるが各政党にあり、コミュニケートをとることになっているが、いつの世も、これが形式化、形骸化されている。

実は冒頭の各巨星たち、陽に暗に、この部分で動き実績を挙げてきた人達であろう。マスコミが言うほど汚いことではないし、国会議員も人間の集団、むしろコミュニケーション醸成のためには、とても大切な役割だと思っている。時にはかっこ悪く、時には集中批判的になり、常にダーティなイメージが付きまとう…(実際に脱法行為をやったのは論外)どちらかといえば、汚れ役である。

今の政治にないものは、この汚れ役がない。みんなが優等生でみんながいい子で、クリーンな政治を標榜している。その結果が震災復興は何も決まらず、円高は人のせい、海外からの信頼を必衰させ、国内経済市場を崩壊させようとしている。

汚れ役、嫌われ役をやりたくない…誰もがいい子でいたい。凡人の本音かもしれない。間違いなくツケは、国民に回ってくる事、いいかげん気づき、そして国民は怒るべきと思っているのだが…。